

かしわ もい 柏葉の杜



【梅の花】

学校だより NO. 31
令和2年2月15日
八頭町立八東小学校
電話71-0108 FAX71-0107

〇5・6年スキー教室。雪に恵まれ無事終了。 ～ 冬の氷ノ山を満喫しました。この冬一番のスキー日和でした。 ～

記録的な雪の少ない今年の冬。1月終わり、大寒のころ校庭でサッカーをする子供たちの姿を見るにつけ、スキー教室・スキー遠足ができるか、心配した1月でした。5・6年のスキー教室が予定通り、無事に実施できるか。1月から2月にかけて、非常に気をもみました。毎日、天気予報を見ながら、氷ノ山スキー場の天気や気温を見る日々を過ごしました。八頭郡内の学校でもスキー教室を延期したり、中止する学校があったりと、各学校も厳しい判断に直面していました。しかし、本校は、幸いなことに予定していた2月6日・7日の前の週に氷ノ山スキー場もようやく降雪があり、天気予報を見れば、翌週の6日は雪マーク、そして、7日は冷え込み晴天となる予報が出て、安心してスキー教室実施を決定できました。

行事を予定通りに実施でき、無事に全員が行事に参加し、行事を終えることができることは、学校にとって何よりも有り難いことです。そして、スキー教室に御支援いただいたスキーボランティアのみなさん（大村益康さん、藤原直樹さん、藤原真理さん、橋本尚志さん、山本顕さん、大村祥一朗さん、西田彰訓さん）には、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



【1日目のボランティアの方との対面式】

さて、スキー教室1日目は、雪の降るゲレンデでした。未整備のため樹氷スノーピアゲレンデは、第1リフトのみの稼働でした。ゲレンデは、県立鳥取東高等学校の高校生で溢れていました。少し手狭の感もありましたが、1日目のスキーを子供たちは十分に満喫していました。昼食もとり、午後もかなり滑り込み、1日目ですっかり上達した児童もたくさんいました。

宿での生活も決まりよくできていました。何よりも、夕食のすき焼きをきれいに平らげていたのには感心しました。「少し食べ過ぎた。」とこぼす子供もありましたが、体調不良で下山した児童もありましたが、残った児童は全員無事に一夜を過ごしました。なかなか寝付けない児童もあったようですが、それも思い出ですね。夜が更けるとともに雪も止み、夜空も晴れて、気温もどんどん下がっていきました。

【まぶしい晴天の2日目のゲレンデ】

そして、翌日2日目は、朝から快晴となり厳しい冷え込みの氷ノ山ゲレンデは、すばらしい雪質となりました。歩くと「キュ、キュ」と音がする雪質。「パウダースノー」の氷ノ山ゲレンデでした。子供たちのスキー技術の向上には、これ以上無いようなすばらしい雪質でした。私の担当したグループの子供たちも、昨日と違い、朝の一滑りから一気に上達したかのような滑りでした。みんなとても良い表情で気持ち良さそうに滑っていました。他のグループの子供たちも氷点下10度近い気温をものともせず、午前中、指導者のみなさんの指導をしっかりと聞き、スキー教室を満喫していました。



今年は「氷太くん」に宿泊予定の1000名以上の方が、雪不足のため、スキー教室を断念したそうです。そうした中、八東小学校児童は、6日・7日ともすばらしい条件でスキー教室ができました。本当に感謝、感謝です。雪国でのこうした運動経験は、子供たちにとってとても貴重だと、常々思っています。スキーは、自転車や水泳などと同じで、幼いときに運動経験をしておけば、自然と体が覚えているスポーツだと思います。一生継続することができる運動です。私も教員になってから始めたスキーでしたので、当初、随分苦労しました。



【1日目・5年生全員集合】



【2日目・6年生全員集合】

【2日間でもこんなに天気が違いました。】

さて、次は、20日（木）の4年生のスキー遠足、また、寒気に覆われ、氷ノ山ゲレンデが雪に恵まれることを願います。天気予報では、20日前には、寒気が戻り再び雪が降りそうです。4年生での経験が、5・6年のスキー教室の実施にも影響します。次年度に向けての意味でも実施予定です。4年生のスキー遠足にもみなさん、御支援の程、よろしく願います。

○プログラミング教育の授業について ～ 6年生理科「発電と電気の利用」の授業を公開しました ～ 【学校のPCルームにて・周囲の壁面にタブレットPC配置】



先週10日(月)、6年生が理科の「発電と電気の利用」の単元で、その一環としてプログラミング授業を公開しました。校外から岩見副町長様を始め18名の参観者がありました。5校時・6校時2時間の授業でしたが、6年生全員集中してプログラミング活動に取り組みました。

今回は、いつも見かける道路の押しボタン式信号機の信号の点滅の動きを「マイクロビット」という機材を利用し、そのシステムの中でプログラミング記号をプログラミングして、そのプログラミング通りにLEDの基板を作動させるというものです。

以前、学校便りにも書いたように、プログラミング活動はプログラミング言語を使う学習ではなく、今回活用したマイクロビットという機材のようにソフトのプログラミングのブロックを組み合わせ、信号の点滅が実際にできるように組み合わせしていくものです。プログラミングのためのブロックには、「アイコンを表示」「一時停止」「文字列を表示」「ずっと・・・」「数を表示」などの**基本**ブロックから、「ボタンが押されたときは・・・」「もし・・・なら・・・にする」「でなければ・・・」のような様々なブロックがあります。更に他にも、「**入力、音楽、ループ、論理、変数、計算、無線**」などなど、様々なブロックがあります。これらをブロックを組み合わせ、LEDを点滅させるようなプログラミングをつくっていきます。

そして、パソコンに向かうだけでなく、「フローチャート」というプログラミングのための手順書を作成します。これは鉛筆で作業するものです。実際、6年生児童も信号の点滅の流れを、フローチャートに書き落とし、マイクロビットのブロックを動かす前に、一連の流れをアンプラグで整理してプログラミングに向かいました。紙の上で手順を考える学習が実は大切になります。

2時間の授業でしたが、パソコンに向かい、フローチャートを書き、友達と話し合うなど、実に多様な学習活動のあったプログラミング学習の2時間でした。次年度からはこのように教科の中で、実際にプログラミング活動を行っていきます。基本は、思考です。



【フローチャートを前に考え込む6年児童たち】

○校章に使われている柏葉の柏の木を植樹しました ～ 遠藤農園さんには、大変御世話になりました。ありがとうございました。 ～

本校の校章は、右の絵の通りで保護者のみなさんもよく御存知かと思います。この校章に使われているモチーフの葉は、柏の木の葉です。このように3枚の柏葉をデザインに入れて作成されています。校歌にも「**柏葉の杜に**」という歌詞もあります。本校に着任したとき、とても清々しく爽やかな、生き生きとした校章だという印象を持ちました。八東小学校にふさわしい校章だと思います。しかし、本校にはこの柏の木がありません。そうしたことから、以前、遠藤農園さんより申し出があり、先月1月28日に校庭の奥手・八東図書館側の校庭の法面に柏の木を一本植栽していただきました。枯れた楓の木を切り倒し、その横に植えました。



ところで、みなさんは柏の木について御存知ですか。すぐに思いつくのは、「柏餅」ではないでしょうか。端午の節句に子供の健康や成長を願い「柏餅」を食べる習慣は昔からあります。なぜ、柏の葉でくるんだ「柏餅」を食べるのかは、諸説ありますが、柏の木は、冬芽を守るために枯れ葉をつけたまま冬を越し、そして、春になると新芽が出る前に葉が落ち、代わるようにして新芽が芽吹きます。そんなことから「葉守りの神」として縁起が良い木として大事にされてきました。「ユズリハ」と同じように世代交代の縁起木として考えられてきたことから、柏の葉でくるんだ「柏餅」を食べる習慣が江戸時代に広まったそうです。また、大昔は大きな葉が食器代わりにもなっていた時代があり、日本人の生活に欠かせない葉であり、樹木でした。



校庭に植栽していただいた柏の木のように、八東の子供たちが来年の春は、芽吹く柏の大きな葉のようにすくすくと広く大きく成長してくれることを願います。今年は雪が少ないので、いつもより早い芽吹きになるかもしれません。枯れ葉が落ち、新しい若々しい新芽が芽吹く春が今から待ち遠しいです。